

黄昏の光 Luz Crepuscular



ロルカの詩III Poema Garcia Lorca III



花畑 Flores (Giverny)

「光の収集家」「現代の印象派」と呼ばれた天才画家

J. Torrents Llado

# ホアキン・トレンツ・リヤド

JMS誌の表紙を飾るスペインの画才の生涯とは――

1613年に伊達政宗公が慶長遣欧使節団を派遣し、日本とスペインの交流が始まって今年で400年を迎えた。これを記念して、2013年6月1日から14年7月31日かけて「日本スペイン交流400周年事業」が実施されている。現在、日本・スペイン両国では相互の理解・交流を目的としたさまざまなイベントが開かれ、賑わいを見せている。

スペインと言えば、現在小誌の表紙を彩るのは、現代スペインの人気画家ホアキン・トレンツ・リヤド（1946〜93年）の絵画である。マネ、モネ、ルノワールといった19世紀後半の印象派の巨匠たちの技法をわがものとし、写実主義に基づいたその独自の画風は、ダリ、ミロ等スペインの巨匠たちの歴史をも継ぐ画才である。風景画のみならず、肖像画家としても名をなし、「ベラスケスの再来」と称され、国際的な名声を得ながらも47歳という若さで急逝したホアキン・トレンツ・リヤドは、どのような人物だったのか。スペイン・イヤーを機に、JMSの表紙を飾るこの天才画家について紹介したい。

## マジヨルカ島の光に魅せられて

豊かな髪に頬を覆う黒い髭、深みをたたえた眼差し――その容貌は聖書の中の預言者を思わせる。ホアキン・トレンツ・リヤドは1946年、スペインのカタルーニャ州バダローナに生まれた。9歳で絵を描き始め、15歳でバルセロナの名門美術学校に入学するや、ずば抜けたデッサン力を発揮して教授陣を驚かせる。数多くの賞を受け、19歳の若さで助教授に任命されるまでになった。

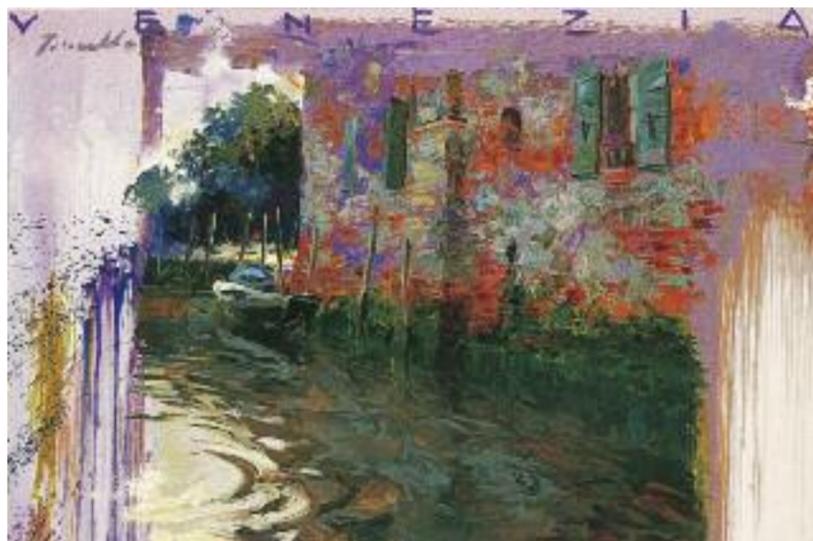
68年、22歳の時にマジヨルカ島にアトリエを開き、創作活動を開始した。西地中海に浮かぶ美しいこの島、「地中海の真珠」と呼ばれたマジヨルカは、素晴らしい自然と、中世を思わせる光と影をたたえた島。かつて訪れた際に、この島の光がリヤドに強烈な印象を残したのだという。リヤドはこの島を拠点として、スペイン、ヨーロッパをはじめ世界中を旅した。そして、その画風を抽象から具象へと次第に変化させていったのである。

咲き乱れる花や、光を受けほのかに揺らめく水、いきいきと生い茂る緑――鮮やかな色彩、そして光と影に彩られたリヤドの風景画は、独特の技法で描かれている。「スプラッシング」というその技法は、絵の具を叩きつけるようにして飛び散らせる大胆な筆づかいが特徴である。近づいて見れば絵の具は飛散して滴り落ち、荒々しくも見える。しかし、少し距離をおいて見ると、見事な風景が立ち上がってくるのである。色彩の美しさと不思議な静けさで、見

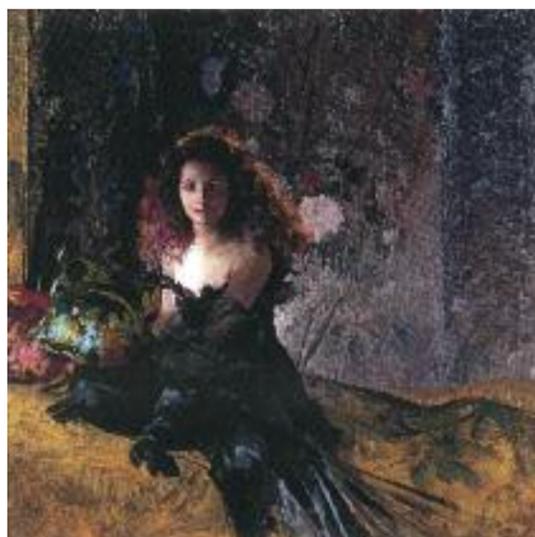


ホアキン・トレンツ・リャド  
J. Torrents Lladó

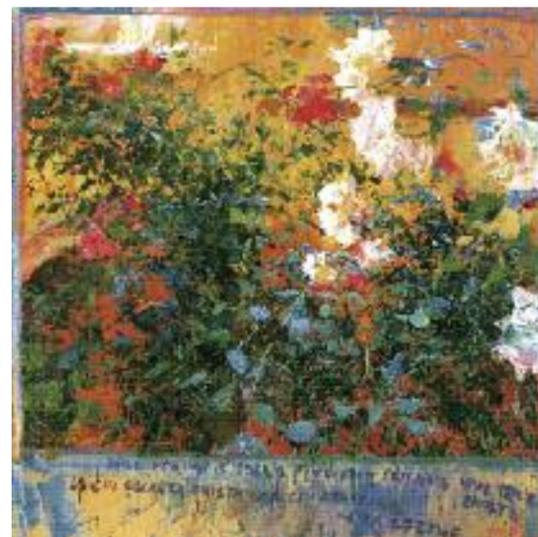
- 1946 2月11日、カタルーニャ州バダローナに生まれる。
- 1955 9歳でバルセロナのアカデミア・バルスで絵を描き始める。
- 1961 バルセロナのサン・ホルヘ高等学校絵画科で学ぶ。
- 1965 19歳にしてサン・ホルヘ高等学校の助教授に推薦される。2年間色彩学の講義を行う。
- 1968 マジョルカ島にアトリエを開く。
- 1971 マジョルカ島で初の展覧会を開催。この後、数多く肖像画の注文が入る。
- 1974 マドリードで展覧会を開催。秋にコペンハーゲンを訪れ、デンマーク王室の人々の肖像画を描く。
- 1977 マジョルカ島パルマのベリ宮殿に地中海自由学校(絵画学校)を設立。後進の育成に力を注ぐ。
- 1988 パーソナリティ・オブ・ザ・イヤーを受賞。
- 1990 11月、日本での初来日個展を開催。
- 1991 スペイン「セビリア・フェスタ」の公式ポスターを作成。
- 1992 2度目の来日個展開催。
- 1993 3度目の来日個展開催。10月6日、マジョルカ島パルマで大動脈瘤のため急逝。享年47歳。
- 1994 3月、パルマのラ・ロンハで、パレアレス州政府主催の大追悼展が開かれる。
- 1995 マジョルカ島パルマがリャドの画業を高く評価し、市内の一角を「J・トレンツ・リャド通り」と名付ける。



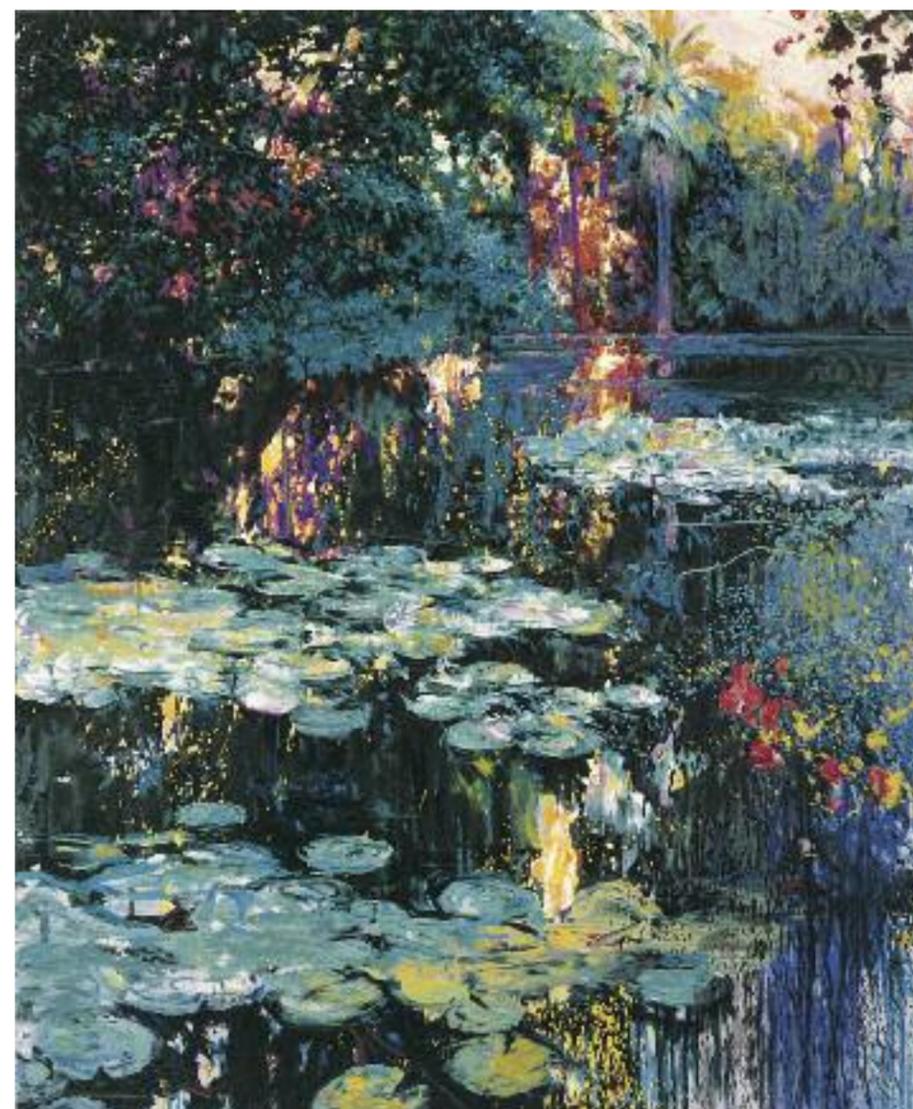
トルセロ Torcello



カロリーナ・アミーゴ嬢 Srta. Carolina Amigo



ゲーテの 詩と共に Rosas (El Poema de Goethe)



カネットの睡蓮 Aigua i Nenúfars

譽を受けたのはスペイン人アーティストとしては、ミロ、ダリに続き史上3人目であった。90年には日本で初来日個展を開催し、多くの人を魅了した。そして3度目の来日も果たした93年、マジョルカ島パルマで大動脈瘤により急逝。「光の収集家」「現代の印象派」と呼ばれた天才画家は、47歳という若さで生涯を終えたのである。

翌年には、州政府主催の追悼展が開かれ、世界中の信奉者とその死を悼んだ。生まれ故郷であるバダローナ市は、リャドの功績を讃える記念の広場をつくり、マジョルカ島パルマは市内の一角を「J・トレンツ・リャド通り」と名付けた。彼の残した絵画は今日も輝きを失うことなく、見る者を慰撫してやまない。

肖像画家としての名声を得たリャドは、マジョルカ島パルマに絵画学校を設立し、後進の育成にあたった。88年に、パリのジャーナリスト協会が世界中のクリエイティブな仕事や美術を称賛して贈る「パーソナリティ・オブ・ザ・イヤー」を受賞。この栄

誉を受けたのはスペイン人アーティストとしては、ミロ、ダリに続き史上3人目であった。90年には日本で初来日個展を開催し、多くの人を魅了した。そして3度目の来日も果たした93年、マジョルカ島パルマで大動脈瘤により急逝。「光の収集家」「現代の印象派」と呼ばれた天才画家は、47歳という若さで生涯を終えたのである。

翌年には、州政府主催の追悼展が開かれ、世界中の信奉者とその死を悼んだ。生まれ故郷であるバダローナ市は、リャドの功績を讃える記念の広場をつくり、マジョルカ島パルマは市内の一角を「J・トレンツ・リャド通り」と名付けた。彼の残した絵画は今日も輝きを失うことなく、見る者を慰撫してやまない。

## ベラスケスの再来

者者の心にやすらぎを与えるリャドの風景画は、このような技術に支えられている。

トレンツ・リャドのもう一つの顔、それは肖像画家としての顔である。マジョルカ島にアトリエを開いたリャドが、71年に同地で初の展覧会を開催すると、肖像画の注文が入るようになった。その3年後にマドリードで全国的な展覧会を開くと注文はさらに増え、スペインのみならず、パリやロンドンからも依頼が来るようになった。

リャドの描く肖像画は、写実的に表現される顔と比較して、衣装や背景が大胆に簡略化されている。そして光と影による神秘的な陰影。ほの暗い背景が人物の輝きを際立たせる。この肖像画においてリャドは、17世紀スペインのゴシック絵画の巨匠ベラスケスの再来と称されるほどの評価を得るのである。デンマークのヘンリー王子、モナコのキャロライン王女、スウェーデンのリリアン女王、スペイン国王ファン・カルロス1世、ブラジルのクビチエック大統領ほか、そうそうたる人々が、リャドの肖像画に魅せられ、描かれることを求めた。